

農地で太陽光に参入

つくば電気通信 まず行方で

通信設備工事のつくば電気通信（茨城県土浦市）は、農地で作物を育てながら太陽光発電する営農発電（ソーラーシェアリング）事業に参入する。行方市で敷地面積2万5千平方メートル、設備容量1500キロワットの規模の発電施設を稼働させる。20日から東京電力に売電を開始する。

営農発電は農地にパネルを設置し、農業を営みながら発電する事業。同社は20日から20年間にわ

たって事業に取り組む予定だ。発電は同社が担い、農地では地主が牧草を育てる。年間発電量は約170万キロワットを想定しており、事業費は5億円程度になる見込み。敷地面積と設備容量の両面で、営農発電事業としては県内有数の規模となる。

同社は今後、かすみがうら市でも営農発電に取り組む。行方市と同程度の施設を2カ所設ける予定で、敷地面積は4万5千平方メートル、設備容量は3000キロワット規模になるという。発電、営農とも同社が手掛け、今秋をめどに売電を始める計画だ。